

文章題のめあてとまとめ 解決の道筋

— 2年「何番目」(啓林館)について —

(注：ページ番号は、平成 27 年啓林館のものであります。問題文は著作権の関係で掲載できません。お手数ですが、教科書を参照してください。)

下 p.98 ① $a - b - 1 =$ の問題

1年 p.120 ①の $a - b =$ の問題 と、本時の $a - b - 1 =$ の問題

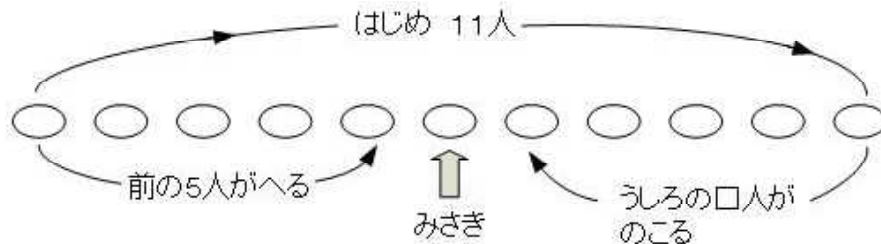
とを比べることで、次のような一般化されためあてをつかむ。

めあて

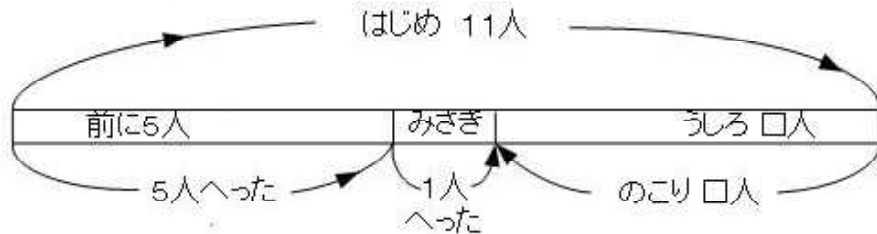
何番目かを数えはじめる人(もの)が 何つの間にいる時の、
のこりの数の もとめ方を考えよう。

図

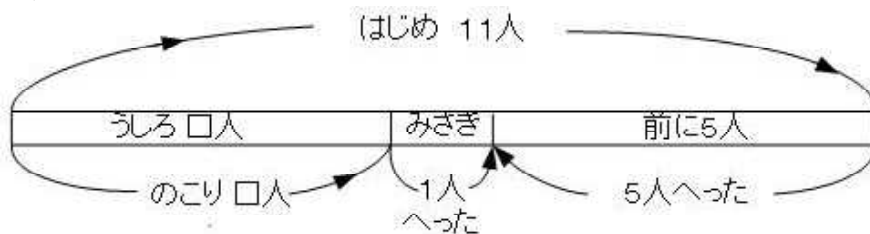
はじめ 11 人いて、そこから みさきさんの前の 5 人と みさきさんを取ると、うしろの人が残ると考えて



「めあて」に振り返って、大きい数でも数量の関係が分かる必要があることから、テープ図にする。



今まで、数が増えるとテープを右に伸ばし、そこから数が減ると左に戻ってきたことから、右側に減った数、左側に残りの数を示すように、図をかき直す。



式 $11 - 5 - 1 = 5$

答え 5人

まとめ

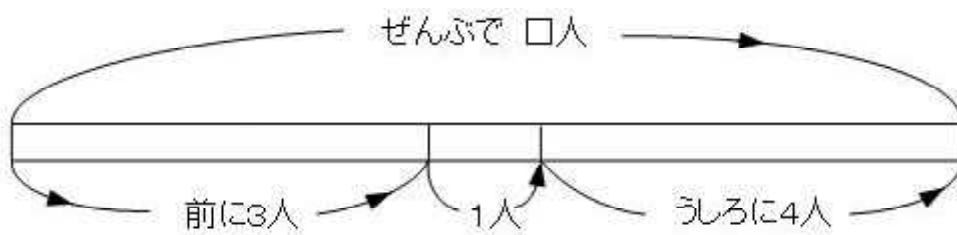
何番目かを数えはじめる人(もの)が 何つの間にいる時の、
のこりの数をもとめるには、さらに 1 をひく。

下 p.98 ② $a + b + 1 =$ の問題

1年 p.120 ②の $a + b =$ の問題 と、本時の $a + b + 1 =$ の問題 とを比べることで、
 次のような一般化されためあてをつかむ。

めあて
 何番目かを数えはじめる人(もの)が れつの間にいるときの、
 ぜんぶの数の もとめ方を考えよう。

図



式 $3 + 1 + 4 = 8$

答え 8人

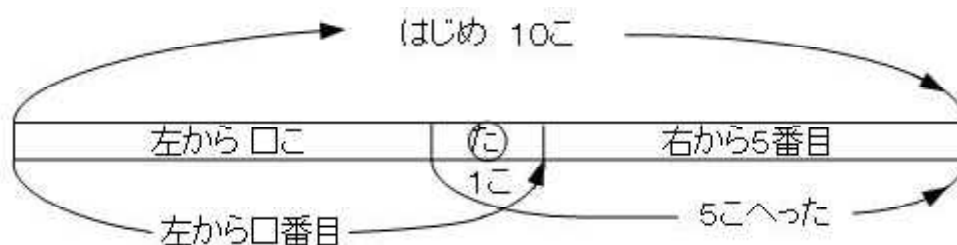
まとめ
 何番目かを数えはじめる人(もの)が れつの間にいる時の、
 ぜんぶの数を もとめるには、さらに1をたす。

下 p.99 ③ $a - b + 1 =$ の問題

1年 p.121 ①の $a + 1 =$ の問題 と、本時の $a - b + 1 =$ の問題 とを比べることで、
 次のような一般化されためあてをつかむ。

めあて
 こ数が分かっていない時の、何番目かの もとめ方を考えよう。

図



式 $10 - 5 + 1 = 6$

答え 6番目

まとめ
 こ数が分かっていない時の、何番目かを もとめるには、
 もとめたこ数に1をたす。

下 p.99 ④

2a - 1 = の問題

1年 p.121 ②の

a - 1 = の問題

と、本時の

2a - 1 = の問題

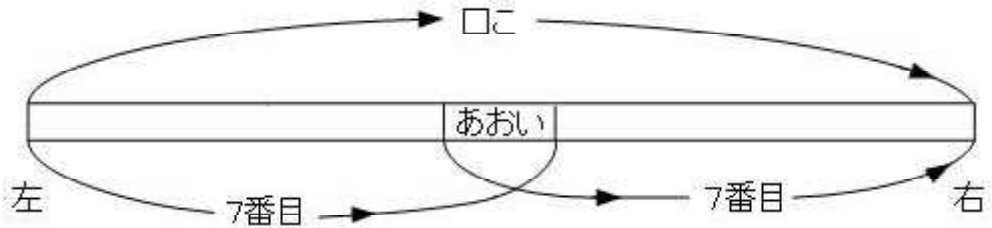
とを**比べる**ことで、

次のような**一般化された めあて**をつかむ。

めあて

2つのむきから数える時の、この数のもとめ方を考えよう。

図



式 $(7 - 1) + (7 - 1) + 1 = 7 \times 2 - 1 = 13$

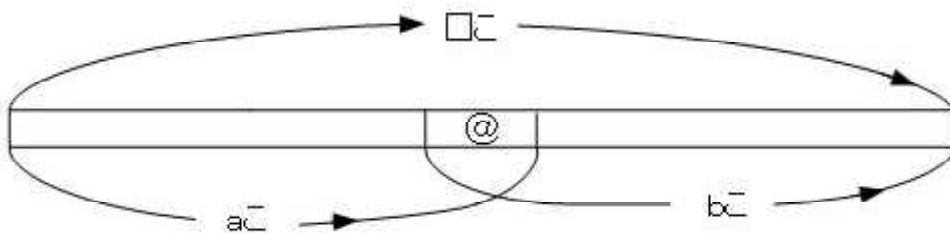
答え 13人

まとめ

2つのむきから数える時の、この数をもとめるには、合わせて何番目になるかを計算して、そこから1をひく。

☆ **a + b - 1 = の問題** では、この数は、 $a + b - 1$ となる。

図



式 $(a - 1) + (b - 1) + 1 = a + b - 1$

答え $a + b - 1$ 人